

有栖川有栖『幻坂』例会

2016年5月7日

【1：「愛染坂」】

【初めに、有栖川有栖について】

1959年大阪府生まれ。同志社大学法学部卒。1989年『月光ゲーム』で作家デビュー。書店勤務を続けながら創作活動を行う。1994年に専業作家となり、2000年本格ミステリ作家クラブ設立に参加。2003年『マレー鉄道の謎』で第56回日本推理作家協会賞、2008年『女王国の城』で第8回本格ミステリ大賞を受賞。2009年に初の怪談集『赤い月、廃駅の上に』を発表、2013年発表の『幻坂』は怪談シリーズの第2弾という位置付けとなる。

主な作品グループ

1：学生アリスシリーズ：1989年『月光ゲーム Yの悲劇'88』から始まる一連の作品。EMC部長の文学部哲学科生である江神次郎を探偵役に迎える。長編4作及び短編集1作、さらに複数の未収録短編が存在しているので、コンプリートを目指す際は注意が必要。有栖川有栖のミステリ作品を論じる上で、最も基本となるシリーズの1つ。

2：作家アリスシリーズ：「火村英生シリーズ」「作家編」とも呼ばれる。京都の私大、英都大学社会学部准教授（シリーズ当初は助教授）の火村英生を探偵役に迎える。1992年『46番目の密室』を初発として、2015年『鍵のかかった男』まで、長編短編合わせて20作品以上が入り乱れており、最も巨大な作品群をなしている。学生アリスシリーズと共に、有栖川有栖のミステリ作品を論じる上で、最も基本となるシリーズである。なお、学生アリスシリーズと本シリーズとは、パラレルな関係となっており、学生アリスが作家アリスの事件を、作家アリスが学生アリスの事件を書いている、との説がある。また、こちらも未収録短編が存在するので、注意が必要。

3：ソラシリーズ：「探偵の禁じられた世界」を生きる少女、空閑純を探偵に迎える。2010年『闇の喇叭』から始まり、2012年『論理爆弾』まで計3作品が存在している。なお、ノベルス版『論理爆弾』には掌編「論理爆弾事件前夜 黒田邸にて」が収録されており、講談社の公式サイトでも閲覧可能との事。前掲2シリーズには劣るものの、有栖川有栖のミステリ作品を考える上で無視する事が出来ない重要な作品群であると思われる。

4：その他：以上述べた3シリーズ以外に、有栖川有栖には大量の作品及びエッセイ等の諸文章が存在している。しかしながら、その全てを簡潔に述べる事はもとより担当者の能力を超えているので、この部分に関しては当日に軽く触れる事としたい。また、上記3シリーズに関しても、今後の例会担当者にその細かい内容に関してはお任せしたいと思う。

怪談作品についてのメモ

1：『赤い月、廃駅の上に』：鉄道をモチーフとした怪談・幻想小説・怪奇小説が10作品収録されている。有栖川有栖初の怪談集でもある。

2：『幻坂』：本作。坂に纏わる7つの怪談及び2つの歴史系統の怪談を収録している。基調となるのは「優霊物語」であるが、怪奇幻想色の強い作品も存在し、一概に性質を決める事は難しい。有栖川有栖の怪談集第2弾である。

3：濱地健三郎の事件簿：怪談雑誌『幽』にて連載中の心霊探偵シリーズ。2014年から発表され始め、現在は4作品が存在している。単行本化が楽しいシリーズ。なお、濱地は『幻坂』においても2回登場している。

・いわゆる「優霊物語」の系統に入る作品

・出会いの坂（愛染さんばらばら）、別れの石段（晴れ）：考えれば、2人は上り下りを共にはしていない

・女を魔性の存在として描こうとする男の側の物語が、最後に反転する

・ラストの男坂と女坂の対比が良い：お互いが見えない状態、という状況設定の良さ

【2：「源聖寺坂」】

・心霊探偵と「ゴシック風小説」のコンビ

・ミステリ的側面について：最も大切なキーとなる事実が後出しジャンケンに

・幽霊の背後に人の闇を配置する構造

【3：「口縄坂」】

・怪猫譚として、あるいは幻想小説として

・幻想の通路：織田作之助と夢

・蛇と猫：人の情欲と怪異の情欲

・幻想の外部性と内部性：猫自体は外部に存在するが、怪異を猫と解釈するのは主人公の内部の問題

【4：「真言坂」】

- ・本日二度目の「優霊物語」：「愛染坂」と好対照をなしている
- ・「忘れた時がほんまになくなる時」
- ・生者が死者へ語りかける構図：川端康成「抒情歌」

【5：「枯野」】

- ・歴史物とドッペルゲンゲル物のコンビ
- ・宗匠と連衆の隔絶：芭蕉の孤独と怪異
- ・井原西鶴と西行

【6：『幻坂』全体について】

- ・『幻坂』のコンセプト：怪談と「大坂」という場
- ・時を越えて絡み合う舞台、人物
- ・有栖川有栖と「怪談」について

【最後に：怪談からミステリへ】

- ・「壁抜け男の謎」→マルセル・エーメ「壁抜け男」
『妃は船を沈める』→W・W・ジェイコブズ「猿の手」
『乱鴉の島』→E・A・ポオ「大鴉」
- ・怪談とミステリとが相互に影響し合って1つの世界観を形作っている場合がある
→ミステリ側からの検討と怪談側からの検討等、複数の検討を行う事で、より深い読みが可能になる場合も
- ・怪談や怪奇小説、幻想小説とミステリとは相反するカテゴリでは無く、むしろ融和的なもの
→有栖川有栖の作品もその例外ではない